

# 「awareness」の処方は今こそ

－世界エイズデーによせて－

沖縄県立中部病院 感染症内科 椎木 創一

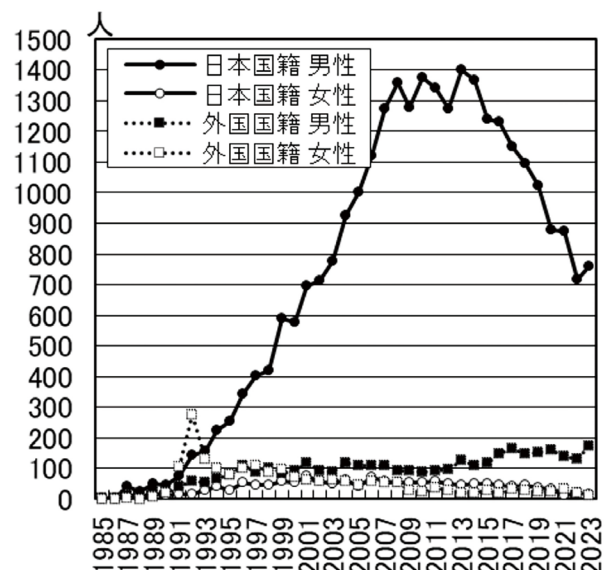


「先生、私最近“ドキシペップ”始めました」  
外来診察室で通院中の患者さんがサラッと云った言葉に、私はすぐに反応ができませんでした。しかし HIV 感染症治療のために通院している背景を考えて、「性感染症予防のために性交渉後にドキシサイクリン (DOXY) を内服する曝露後予防 (PEP ; Postexposure prevention) のことか」、と理解しました。この方策は性交渉による梅毒やクラミジア感染症の罹患率を下げるエビデンスが示されており、世界的に広がっています<sup>1)</sup>。日本では予防内服としての DOXY は保険適用になっていませんので、患者さんは Web 処方してくれるサイトで依頼して薬剤を送ってもらっているとのことでした。確かに「DOXY-PEP」で Web 検索すると、国内だけでも多くのクリニックがヒットし、1 回分 (DOXY 200mg) を 2,000 ～ 3,000 円で購入できるよう。MSM (Men who have Sex with Men) の方々の間では Web を介して多くの情報交換がされるようになり、世界で行われている予防策もどんどん取り込んでいます。

その一方で、インターネットをうまく使えず必要な情報に到達することができない方々もいます。それは、HIV 陽性者の中で着々と増えている高齢者や、日本に滞在している外国国籍の HIV 感染者です。2023 年のエイズ発生動向でも、2013 年から徐々に減少傾向にある日本国籍男性報告数と比較して、外国国籍男性報告数はじりじりと増加し続けています (図)<sup>2)</sup>。留学生や研修生など様々な形で日本に来てくださる外国籍の方が増える中、日本語や日本の医療保険システムがわからないと適切な情報を得ることができません。こうした方々は情報が溢れる現在の日本であっても「情報難民」になっ

ています。HIV 感染症は早期に検査を受けて適切な治療を開始することで、本人が健康を保つことができるばかりか、他者への感染を防ぐことにつながります。そのため、国連加盟国が取り組んでいる「95-95-95 ターゲット」では、HIV 検査・治療・ウイルス抑制がそれぞれ 95% 以上の対象者で行われていることを達成目標としているのですが、「情報難民」が生まれてしまっはそれを到達できません。

「世界エイズデー (World AIDS Day : 12 月 1 日)」は世界レベルでのエイズ蔓延防止と患者・感染者に対する差別・偏見解消を目的に、WHO が 1988 年に制定しています。WHO のサイトを訪れると気づくのですが、World AIDS Day だけでなく、結核、マラリア、肝炎、子宮頸がん、未熟児、薬剤耐性菌や熱帯病など、多くの疾患について「Global health days and weeks」としてキャンペーンを行っています<sup>3)</sup>。



図：全国の国籍別 HIV 感染者・エイズ患者 (合計) 新規報告数の推移 (2023 年度)

そのどれもが必要としているのが「awareness」です。「気づき」「認識」と訳されますが、多くの人々がそれらに関心を持つことが撲滅には必須であり、大きな課題なのです。日本においてHIV感染症のことを知っている人は増えていますが、関心を持ち、その内実を理解している人が広がっているとは言えないでしょう。「awareness」を多くの方に持ってもらうための適切な情報提供が情報難民をサポートするために必要な方策であり、医療従事者である私たちが多くの方々に手渡す必要と責任のある「処方箋」であると考えます。

#### 参考文献：

- 1) Luetkemeyer AF, et al.; DoxyPEP Study Team. Postexposure Doxycycline to Prevent Bacterial Sexually Transmitted Infections. N Engl J Med. 2023 Apr 6;388(14):1296-1306. doi: 10.1056/NEJMoa2211934. PMID: 37018493; PMCID: PMC10140182.
- 2) 厚生労働省エイズ動向委員会「令和5(2023)年エイズ発生動向-概要-」  
(<https://api-net.jfap.or.jp/status/japan/data/2023/nenpo/r05gaiyo.pdf>)
- 3) WHO. Global health days and weeks  
(<https://www.who.int/campaigns>)

## お知らせ

### 日本医師会医師賠償責任保険 医療通訳サービス

医療通訳サービスの概要	
<b>契約形式：</b> 日本医師会医師賠償責任保険 基本契約への医療通訳サービスの付帯 <b>利用対象者：</b> 開設者・管理者が日本医師会 A1 会員である医療機関の医師・職員 <b>医療通訳の内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>電話医療通訳：</b>A1 会員一人あたり年間 20 回まで無料、19 言語、毎日 8：30～24：00  <small>※無料利用回数を超過した場合、追加費用は時間精算となり、5 分毎 1,500 円(税抜)を利用した A1 会員の先生方にご負担いただきます。  <small>※なお「ウクライナから避難された患者やその親族」における医療通訳サービスにつきましては、対象言語に関わらず、年間 20 回の回数制限から除外して対応いたします。</small></small></li> <li>・ <b>機械翻訳：</b>回数無制限、18 言語、毎日 24 時間(無料)</li> </ul> <b>開始時期：</b> 令和 2 年 4 月 1 日(改訂日：令和 4 年 4 月 6 日)	
電話医療通訳	機械翻訳
<b>対応言語：19 言語</b> (英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・タイ語・ロシア語・タガログ語・フランス語・ヒンディー語・モンゴル語・ネパール語・インドネシア語・ペルシャ語・ミャンマー語・広東語・アラビア語・ウクライナ語) <b>対応時間：毎日 8：30～24：00</b> <small>※ IC、ムンテラにも対応  <small>※ウクライナから避難された患者やその親族における電話医療通訳については対象言語に関わらず、年間 20 回の回数制限を除外して対応</small></small>	<b>対応言語：18 言語</b> (英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・タイ語・ロシア語・タガログ語・フランス語・ヒンディー語・モンゴル語・ネパール語・インドネシア語・ペルシャ語・ミャンマー語・広東語・アラビア語) <b>対応時間：毎日 24 時間</b> <b>※ウクライナ語は対象外</b>

スムーズなサービス利用のために、事前登録をお願いします。

医療通訳サービスの提供に当たっては、電話医療通訳を利用する電話番号等事前の登録が必要となります。  
 ※利用登録がない場合であっても会員確認が出来た場合には、電話医療通訳を利用することが出来ますが、別途利用登録が必要となります。

#### サービス提供：メディフォン株式会社



GOOD DESIGN AWARD 2020



ホームページ：  
<https://mediphone.jp/>

医療通訳サービス  
申し込みフォーム

<https://mediphone.jp/forms/jma.html>

